



国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



■創 立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
 ■会 長■ 小林 透 ■幹 事■ 廻 辰一郎 ■会報委員長■ 石井 慎一
 ■事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2016-17年度

第2577回

平成29年2月24日(金)点鐘12:30 《曇り》

- ◆ロータリーソング『それでこそロータリー』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

◇本日の卓話者
オークラ千葉ホテル スタッフ ガイダ・マルティン様

◆会長報告及び挨拶 小林 透会長



2月16日のIMへの出席と会場運営におきましては、会員の皆様のご協力、有難うございました。また、パネルディスカッションにおいては、私のつたない発言に耳を傾けていただき感謝しつつも恥ずかしい思いをしてまいりました。皆様、本当に有難うございました。

臨時総会

12月の総会で決定した次年度理事役員ですが、出井会員が地区職業奉仕委員として出向することとなり、負担が大きくなることから次のとおり変更することが出席会員36名全員の賛成で決定いたしました。

次年度理事(社会奉仕委員長)は、出井清会員から酒井秀大会員に代わりました。

◆委員会報告

金親博榮ガバナー補佐

先日開催されたIMは、皆様のご協力のもと、無事終えることが



できました。お礼まで壇上に上がらせていただきました。有難うございました。

クラブ研修委員会 (伊藤和夫委員長)

ロータリーでよく話題に上る高潔性について話がありました。

1. あなたが言ったことを高いレベルで実行すること
2. あなたの持っている倫理、基準に誠実であること
3. あなたが関係する物事に公の意識を持って見ること

◆幹事報告 廻 辰一郎幹事

特にございません。

◆ニコニコボックス報告

《小林 透会長・廻 辰一郎幹事》

先週のIMでは、金親ガバナー補佐におかれましては本当にお疲れ様でございました。そして会員の皆様的一致団結したお手伝いを賜り、誠に有難うございました。

また、先週は春一番が吹き荒れました。春一番とは、その年の立春から春分までの間に最初に吹く強い南寄りの風のことを言います。花粉症も始まりましたが、春はもうすぐそこまで来ています。

皆さん！もう少しの辛抱です。

《金親 博榮会員》

2月16日の第3分区A・B合同インターシティミーティング開催につきましては、ホストクラブとして大変お世話になり、有難うございました。ロータリーの心を知るといテーマはいかがでしたでしょうか？

《北田 城児会員》

猪野会員の強いご推薦もあり、当ホテルガイダ・マルティンの卓話再登場です。彼は1年間のワーキングホリデービザで来日、当ホテルでアルバイト勤務をして今に至っておりますが4/1の正社員雇用を決定し、現在、ビザの切替え手続き中ですので、今後もお顔をみせることが増えてくると思います。また、プライベートですが、長女がようやく今月結婚してくれました。旦那は、ついこの間、天下り問題

で世間をにぎわしておりました文部科学省のお役人です。

なんでもいいので片付けてくれてホットしていません。

本日のニコニコボックス	4,000 円	累計	261,000 円
金の箱	320 円	累計	13,479 円

◆出席報告 (会員数51名)

出席者数	欠席者数	ピンター	修正出席率
51 名	15名	1名	2/10分 68.63 %

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい。](#)

千葉RC	月	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	—	センテイタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	3/28	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	3/29	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	3/15・3/29	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	3/16・3/30	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	3/23・3/30	京成ホテルミラマーレ

本日の卓話

演 題⇒「日本とポーランドの教育の違い」

卓話者⇒ オークラ千葉ホテル スタッフ
ガイダ・マルティン様



皆様今日は。

本日ここに立つのは二回目となります。数ヶ月前にロータリクラブの皆さまの前でスピーチさせていただいたときは、二回目があるとは思いませんでした。またお話しする機会を与えてくださって有難うございま

す。光栄です。

前回は、自分と母国の紹介をさせていただきました。ポーランドと日本の多くの違いについて語って、日本で生活を始めようとしている外国人の気持ちを伝えようと思いました。

本日はもっと具体的なお話しをしたいと思います。教育のお話です。日本とヨーロッパの教育はとても違ってその違いを研究すればたくさんを学べるでしょう。

ある国の教育を調べてみるとその国に対していろんな情報を収集できます。文化や歴史、宗教や経済的な状態など…。それぞれの因子は教育に影響を与

えています。それだけではありません。これから国の形を築いていくのはほかでもない、現在、教育を受けている若者です。教育とは過去に影響されて未来へつないでいく、軽く見てはいけません。とても大事なもののなのです。その教育の仕方を決めるのは社会の強王者、すなわち政治家、公務員、教授たち、会社のトップです。

ロータリクラブのメンバーの皆さまは日本の未来を思っている方が多くいらっしゃるに違いありません。私の意見を皆様にお伝えするには理想的な機会だと思います。

具体的な話を始める前に告白しなければいけないことがあります。私は日本の学校へ通ったことはありません。持っている情報はすべて読書や知り合いの話から収集したものです。現実的ではない意見を言うてしまうこともあるかと思いますが、その時は大目に見てくださると幸いです。

もう一つお伝えしたいことがあります。今までの紹介文の流れから推測できるかと思いますが、日本の教育に対する私の思いには批判も含まれています。時々、厳しい意見をしてはあくまで私の考えということをお忘れなくください。折角の機会なので建前や気遣いを少し置いて、正直な私の考えをお話しさせていただきたいと思います。

日本の教育の問題は私自身にも無関係ではありません。これからずっと日本で生活したい私は、いつか自分の子供を日本の学校に通わせることになるでしょう。日本の高校に留学させたい妹もいます。自分が日本の学校に通ったことはないかもしれませんが教育の件はとても身近に感じています。

最後にもう一つ。本日のスピーチのテーマはあくまで公設で行われる教育です。ですから親の役割として家庭で行われる教育や指導のお話しは一切しません。

それでは、話題の肝心なところに進みたいと思います。教育にはいくつかの段階があります。幼稚園、小学校、中学校、高校、大学。その根本的な仕組みは日本とポーランドはほぼ同じです。

学費や学校の設備を比べてみましょう。ポーランドの学校は完全に無料です。国立大学を含めて教育は一切コストがかかりません。貧しい家族の子供達でも安心して勉強できる環境です。大学に入ったら返す必要のない奨学金をもらえます。勉強の時間を奪うアルバイトをしなくても経済的な心配をせずに学業に集中できます。

逆に日本の学校の方は設備が整っているでしょう。学校には必ずプールがあり、化学の実験や料理の勉強ができる場所も用意されています。最も重要なことは部活や文化祭の存在です。今までいくつかの学校を見学させていただきました。部活に入って一所懸命好きなことをマスターしようとしている学生を見て感動しました。文化祭は生徒たちが努力の結果を発揮できる舞台として活躍しています。若者たちが部活や文化祭、運動会などに参加することで人間

として成長できると思います。計画を立てたり、協力したり、競争したり、成功したり、失敗したり…。社会人に必要な経験を重ねていきます。

先生の言いつけに従うだけではなく自分の頭で考え、仲間と交渉し、行動をとり、自分のしたことの責任をとれます。授業に出るより大切な活動と言っても過言ではないかもしれません。

私は授業の仕方が日本の学校の弱点だと思います。ヨーロッパの学校と比べると暗記を重視しすぎています。21世紀は情報の時代です。知識を頭に叩き込むより情報をどうやって探せるか、成功するには何をすればいいのか、これからの人生に待っている試練をどうやって乗り越えればいいのか。実際に使道のある勉強にもっと力をいれようではありませんか。

でも、そういう勉強の時には必ず疑問や答えにくい質問が現れます。数学と違って人生には絶対的な答えがないからです。必ずディスカッションが生まれます。答えられない質問のせいで教師としての顔を失ってしまう機会も現れるかもしれません。先生にとって心地のいい展開とは言えません。不確かな状態に置かれて教師は対応できるのでしょうか？

現代の学校は勉強の意味を間違っているようです。勉強はいい会社に入るために行われるべきものではありません。周りの世界と人間のことを理解するための活動です。でも知識と違って人の理解力はテストで図るのは難しいです。時間をかけて生徒一人一人とお話ししないで人の器が解るものなのでしょうか？現代の教育制度であれば、そういった Case By Case の教え方は人材的には不可能でしょう。

そのような「人生勉強」を増やすにはどうすればよいのでしょうか？それはとても興味深い話題だと思います。

最後にもう二つの問題に触れたいと思います。一つ目は、暗記や知識を優先する塾です。塾のせいで子供たちは子供らしくいられないと思います。同年代の友達と時間を過ごして、遊んで、喧嘩して、仲直りして…。それらも成長するには大切な経験です。塾がその時間を必要以上に奪っていくと思います。

二つ目は大学の授業を軽く見ることです。医者や弁護士になろうとしている真面目な学生もいると思いますが、大学に入って、厳しい受験勉強でちゃんと青春を経験できず、大人になってからそれを取り戻そうとしている若者が多いです。

結果として、授業に出るより取り戻した自由を利用して遊ぶことを優先してしまいます。日本の大学は、入学は難しいけれど卒業は簡単だと言われます。それはとてつもない間違いです。大学とは、子供が大人になれる舞台として活躍しなければなりません。大学とは、学生がこれから自分がやりたい仕事に必要な知識やスキルを身につけられる学び舎があります。中学校や高校の勉強の負担を減らして、子供たちには思いっきり青春をさせて、もっと大学

の授業を重視すべきだと思います。

厳しい意見をたくさん述べてしまいましたが、最後に一つプラスのことを言いたいです。

ヨーロッパにはない、日本の学校の素敵な習慣のことです。それはお掃除です。ポーランドの学校には必ず掃除をしてくれるお婆さんがいます。そのせいで学校をきれいにしようとしないうちの子供がたくさんいます。日本の学校は子供に自分の回りをきれいにしないとイケないという大事なレッスンを教える働きを果たしています。それはとても素敵なことだと思います。

これで私のスピーチを終わります。もっと具体的に話したいことがたくさんありますが、残念ながら時間や自分の言語力は悲しくなるほど限られています。最後までお聞きいただきありがとうございました。

◆◆◆◆ポーランドの写真(インターネットより) ◆◆◆◆



第2578回例会

日時→ 平成29年3月3日(金) 点鐘12:30

卓話→ 『会員ミニ卓話』

第2579回例会

日時→ 平成29年3月10日(金) 点鐘12:30

卓話→ 『日本に留学してよかった』

米山奨学生 シェルパ・チリンさん